

第24回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成22年 10月 29日（金）19時00分から21時00分
- 2 開催場所 新ごみ処理施設建設工事現場事務所 1階 会議室
- 3 委員出欠 出席13人
 - ・出席委員 荒木千恵子、大江宏（会長）、河本美代子、小林隆志、小林義明、佐藤壽、田中茂利、寺嶋均（副会長）、時津直子、中澄子、藤生よし子、増田雅則、松井和夫、
- 4 出席者
 - 事務局 浜三昭、内藤和男、岡本正昭、荻原正樹、大木和彦、奥山尚、飯泉研、深井恭、飯高秀男、和田良英、高畑智一
 - J F Eエンジニアリング株式会社
 - パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 0人

【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - （1）第23回市民検討会議事録について
 - （2）第10回ふじみ衛生組合地元協議会について
- 4 協議事項
 - （1）環境学習機能について
 - （2）中間報告のまとめについて
- 5 その他
- 6 閉会

【配布資料】

議事次第

【資料1】 第23回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

【資料2】 各階平面図

【資料3】 中間報告のまとめ（案）

【会議録】

午後7時 開会

1 開会

【事務局挨拶】

【配布資料の確認】

2 会長あいさつ

【会長挨拶】

3 報告事項

(1) 第23回市民検討会議事録について

【事務局説明】

会 長 : 何か気づいた点はあるか。

A 委員 : 今後排出ガスの分析測定について、鉛とかカドミウムなどの重金属類や有害化学物質の分析、測定を行う用意があるのか。

事務局 : 現時点で確定しているものは水銀である。そのほかの物質については、今後地元協議会の中でどういった項目について、どの頻度で測定していくのかを議論する予定である。広報等を通じてご案内をする。また、市民検討会にも報告したい。

(2) 第10回ふじみ衛生組合地元協議会について

【事務局説明】

会 長 : 何かご質問はあるか。

B 委員 : 見学した多摩川清掃工場と品川清掃工場の両施設の特色とか、見学の意図を教えてください。

事務局 : 多摩川清掃工場は、処理能力が日量300トンで150トン炉が2炉でふじみ衛生組合の新ごみ処理施設と非常に近似している。

両施設とも、屋上緑化と壁面緑化、太陽光のソーラーパネルを設置していること。また発電も両施設とも行っていること等、ふじみ衛生

組合の新ごみ処理施設においても採用予定である技術等を確認するため選定した。

会 長 : 交通計画と安全対策で、ニュースの裏面に変更後の図と変更前が載っている。大分変わった感じになるが、変わった要点について説明をしてほしい。

事務局 : 建設ニュース v o L 2 4 裏面、図-2 こちらについてはまだ事業者が決まる前の図で、あくまでも想像の図。ただし、環境アセスを実施するに当たっては、最低限この程度の図面が必要であったので、想定される図をかいたということである。例えば建物であれば、最大の負荷がかかるという予定で、60メートル×90メートルの建物を図に落としている。

一方、実際に事業者が、J F E エンジニアリングに決まり、提出されたものが図-1、変更後の図である。こちらは、今後実際に建つ建物で、例えば建物の大きさは59メートル×84.5メートルと一回り小さくなっている。

煙突の形状は、変更前は四角い煙突であるが、変更後は丸い煙突になっている。四角い煙突だと、1辺の長さが10メートルあるので、対角線は14メートルになる。丸い煙突10メートルなので、よりスリムな煙突となる。

緑地の部分は、周回道路が、四角い回り方から、丸い、滑らかな回り方になっており、変更後のほうが緑地の面積は多くとられている。

事業者が決定してから、建物はコンパクトになり、煙突もスリムになり、緑地が増えているというような違いがある。

会 長 : 交通動線、自動車の搬入動線等が大分変わっているが。

事務局 : 搬入動線は、基本的にはこの市民検討会で検討され、20年3月に実施計画という形でまとめた動線になっている。

4 協議事項

(1) 環境学習機能について

【事務局説明】

事務局：環境学習機能についての議論は、今日が最後ではないが、今回は2期の最後となるため、2期でまとまったことについて、2期の委員会の報告の中に盛り込みたい。その意見を踏まえて、次の第3期で引き続き議論をしてほしい。

環境学習で一番多く利用するのが、小学校4年生の環境学習で、大体1回あたり1時間から1時間15分ぐらいの施設見学である。小学校4年生に研修室や、環境学習のスペースコーナーを使って、どのような環境学習ができるか。また、構造上の変更ができない部分はあるが、見学のスペースをどのような形で活用できるかについて、忌憚のない意見をお願いしたい。

会長：何か意見はあるか。

B 委員：3つほど提言を申し上げたい。まず1つ目、大研修ホールは、小中学校の普通教室の面積64平方メートル換算してみると、2.75倍ある。30人クラスが来ると3クラス分の面積がある。あくまでも活動する面積ではなくて、普通教室のように整然と机に並んだときの面積である。そうすると、何か体験学習をグループ、集団で、活動するとなると、この面積で十分だろうか。講義とか、話を聞く面積としてはいいと思うが、多目的な使い方をするにはどうか。柔軟に面積が拡張できるような仕組みにしておくことがいいのではないか。

2つ目。3階の会議室、研修ホールを有効活用という面で提言したい。見学した柏市の南部クリーンセンターや、流山市の施設では、市民、団体の環境エコ活動の場所となっている。こういうことは当然時代の要請、啓発、そういう意味からも必要になってきているし、定期的に活用されることが望ましい。参考に活用の1つの例を報告する。武蔵野市クリーンセンターでは、環境講座として、環境について学ぼうとするすべての方を対象に、環境について楽しく学べ、数百円程度の実費をとって、月に1回程度、定期的で開催されている。市民、団体の活動報告会や講座、講義、情報交換も含めて、恒久的な有効活用という視点が必要である。

3つ目。エコサイクル工房として、調布市と三鷹市、両市の統括センターとしての活用も十分考えられるのではないかと。

その他最後に当施設のネーミング。愛称を募集して、より親しまれる施設にすることも大事ではないかと。

会 長 : 今の3点について、回答できることを事務局からお願いしたい。

事務局 : 提言の部分は意見という形で承る。その中で今後どの部分が反映できるのかを検討していきたい。

それから、グループ活動の場としては182平方メートルでは少し狭いとの意見だが、部屋を利用の仕方について、例えば小学生の見学者が来たときに、2つのグループに分けて、1つのグループはこの大研修ホールのほうでグループ活動をしている間に、もう1つのグループは施設全体の見学をする。見学から帰ってきたら、今度は交代して、見学してきたグループが大研修ホールでグループ活動を行って、大研修ホールでグループ活動を行っていたグループが今度は施設見学に回るといった方法等もある。そういったアイデアもぜひ皆様から提案してほしい。

会 長 : ネーミング募集の件を、事務局より。

事務局 : 確かに現在のふじみ衛生組合新ごみ処理施設では非常に味気のないネーミングである。ネーミングについてはぜひ公募していきたい。

会 長 : リサイクル施設的なものについては、ここだけで完結できないのではないかとという点はある。いかがか。

事務局 : 三鷹市では、三鷹市深大寺二丁目のリサイクル市民工房という施設がある。一方、調布市は今まではこちらの調布のクリーンセンターにリサイクル館があったが、ふじみ衛生組合の敷地の一部になってしまったので、現在は中央高速の下でリサイクル館を開館している。三鷹のリサイクル市民工房の機能と調布のリサイクル館の機能を統合して、1カ所にまとめてさらにいいものができれば、それはとても素晴らしいことだと思う。ただ、今回の敷地の中で、面積の中で可能なのかどうか。可能でないならば、将来的にはこういったことが考えられるのかというのを詰めていく必要があると思われる。

E 委員： 両市の市民の意見を聞いたとのことだが、その中で、温浴施設などの要望は出されなかったのか。

もう一つ、健常者であれば長い廊下も歩けるが、身障者のことも含めて考えていただきたいと思う。

会 長： 説明会等で要望は出なかったのか。バリアフリー対応についてはどう考えているのか。お願いしたい。

事務局： 両市でアンケートをとっている。その中では環境学習機能、リサイクル市民工房的なものを充実してほしいという意見があった。また、余熱を利用したプールという意見もあった。ただ、この市民検討会の中では、余熱利用の部分よりも、環境学習機能の充実という意見が強かった。そのようなことから、温浴施設等については、新ごみ処理施設の中では一切考えてないというのが事務局の見解である。

バリアフリーの件は、廊下については原則3メートル以上を確保し、車いす同士がすれ違える構造になっており、通路にはすべて手すりをつけている。また、駐車場も玄関に一番近いところに身障者用の駐車場を用意している。

会 長： 他に何かあるか。

B 委員： 例えば30人クラスの小中学生が3クラス来た場合、大研修ホールがいっぱいになる。それを時間差で使うという話だが、私は、30人ぐらいの児童生徒がグループ活動等をすることを想定したいわけである。

小中会議室は、アコーディオンカーテンで仕切り、人数や場合によっては開いて、拡張できるというふうな形がよい。

市民のための、子供たちのためのスペースということを優先して考え、体験活動のときその部屋が空いているなら使わせてやりたい。子供は1回しか来ないかもしれないが、来た時に最高の感動と体験をここで十分味わわせてやりたいという気持ちがある。だから、小会議室、中会議室があいていたら開放する。机やいすがあるならどかせばいいわけで、ホールの有効活用、子供たち、児童生徒のための活用方法も十分考えられると、再提言したい。

それから、大会議室から小会議室は、見学者用だけのものなのか。

それとも、行政も使うのか。地域にも開放するのか。

会 長 : 事務局、お願いしたい。

事務局 : 大会議室、中会議室、小会議室、大研修ホール、当然見学にも使うが、それ以外にも行政のほうでも、例えば議会等があれば使う。また、普段あいていけば、市民の皆様にも貸し出しをするという目的で設けるものである。

会 長 : 使用は限定したものではないということである。

J 委員 : 環境学習機能という問題なので、小学校の校長にちょっと意見を聞いてきた。ごみが出てから処分場に行くまでをわかりやすく説明を、子供たちにわかるようにしてほしいという話であった。また、見学者ルートの中でガラス張りで見えるところは、1学年、80人弱ぐらいの生徒たちがそろって見られるとよい。スペース的になかなか無理だと思うが。また、リアルに、例えば熱やにおいを感じられるというのもよいのではという話を聞いてきた。

会 長 : 事務局、何かあるか。

事務局 : ごみの行方については他の焼却場等でもやっているケースがあるので参考にしたい。個人的な見解だが、非常に長い廊下があるので、廊下の端から端まで全面使って、一連の流れを再現するのも1つ方法かもしれない。

見学者の窓は、80人は厳しい。1クラス分40人程度が限度ではないか。もう一つ、見学のときには必ず説明員がつくので、説明員の声の通る範囲程度が望ましい。1クラスに1人ずつ担当がついて、2班に分かれて見学したほうが、生徒の皆さんにもわかりやすく、説明もできるのではないかと考えている。

会 長 : 大研修ホール横の会議室は、一部は倉庫であったか。

事務局 : 大研修ホールで、机といすを120人分、用意する。その収納場所として想定している。

会 長 : 倉庫も大事、必要だと思うが、小林隆志委員からの指摘の場所を入替えればつながるのではないか。

事務局 : 小中会議室と倉庫を入替えることによって大研修ホールにつながると

いうことか。

会 長 : そういう発想もできる。

事務局 : 耐震構造にかかわる部分は無理であるが、耐震構造に影響がない入替え等であれば検討できる。

L 委員: DVDはどこかの業者が作成すると思うのだが、小学校の先生、子供たち、児童会などの意見を聞きながら、作るとよいのではないか。見学、学習プランも意見を聞きながらつくられたらいいのではないか。

会 長 : ソフト作成についての意見を、いろいろ知恵を集めるというのもすごく大事。現場、実際にそれを利用する方々の意見を聞く。ぜひ取り入れていただきたい。

A 委員: 狭く限られたスペースである。1期の市民検討会で十分議論されているようなので、今さらああしろ、こうしろと言ってもしょうがないのではないか。

子供向けに重点に置いているようだが、どこに要点を置くのか。PRする、来た見学者に対して、ごみ処理施設の流れだけ説明するのではなく、ごみの処理、分別する過程において、ちっと分別する。そうしないと後々問題が起きるということを、子供たち、大人たちにも話していくことが必要である。

小学4年生の子供が見学に来るということだが、ごみ処理施設の流れだけを示すのではなく、環境問題、例えば酸性雨の問題とか、地球温暖化の問題とか、そのようなビデオも用意して、勉強するのも一つの方法かなと思う。なかなか環境学習機能を絞って検討するというのは難しいと感じている。

会 長 : 1期では細かい議論はしていない。温水プール等の還元施設みたいなものではなく、環境学習に重点を置いた啓発施設を中心にすべき、そういう大きなコンセプトを何回か議論した。

施設の外枠が、物理的な外枠が決まってきた。それを踏まえ、2期中身に入れるものの検討を今やってきたところであるが、ソフト、中身も整理しながら、我々がここでどれぐらい具体的なところまでやれるかという難しい。たたき台を出してもらいながら、こういうこともあ

ったほうがいい、ああいったものもいいと議論している途中ではないかと思う。

私の考えだが、DVDの内容に関係者の意見を反映したりという話も出てきた。そういうものを踏まえて、3期でソフトの中身の整理し、小学4年生だけでなく、大学生も見学させるなど、多様な学習機能を備えたものにしていく。この中身は、それこそユーザーのほうからこんなことを入れてほしい、こういうことも教えてほしい、と出して、どれぐらいできるのか検討をしていかななくてはならない。是非3期で整理したい。

E 委員： 特別に何か別な施設をつくるということではないと思う。環境問題は、子供、幼稚園のころから大事だと思う。子供たちに環境問題に関心を持ってもらい、家庭につなげていく。そういうような展示があればいい。

副会長： 子供たちに何でゴミを焼却して処理しなくてはいけないのかというところをきちんとわかってもらわないとまずいと思う。ゴミを燃やすと炭酸ガスが出て、地球温暖化のためによくないのでは、そう感じる方も多いと思う。ただ、ゴミを燃やさないということをもし仮定した場合、選択肢としては埋め立てるしかない。生ゴミを埋め立てると、空気に触れない嫌気性の発酵という形で、ゴミの中の炭素はメタンになって大気中に出ていく。そうすると、メタンガスは炭酸ガスよりも20倍も地球温暖化の効果が高い。長期的に見ると、燃やしたほうが地球温暖化にはかえっていいんだということが1点言えると思う。ただ、これには時間軸の問題がある。ゴミを燃やすとすぐ炭酸ガスになる。メタンガスになるにはかなり時間がかかる。

もう一つは、ゴミを燃やして発電し、電気で回収したり、熱利用する。今、ふじみ衛生組合で計画している設備で発電すると、余った電気は電力会社に売る。電力会社で使用する燃料をその分だけ節減できる。ということは、それによって、炭酸ガスの排出量を減らせる。また、この工場で使う電力も自給できる。発電しなければ、東京電力から買わなくてはならない。東京電力がその分だけ余計炭酸ガスを出して電気を発電することになり、それを節減できる。そういう計算をしていくと、

高効率発電をやると、かえって炭酸ガス、地球温暖化効果ガスを抑制する効果が生まれるという点がある。

そういうことを子供たちにわかってもらう必要がある。何でゴミを埋め立てるよりも、燃やして焼却することがいいのかということ。もちろん、分別収集して、リサイクルは徹底してやる。これは一番大事であるが。

もう一つは、「もったいない」から、リサイクルをと言うのだが、「もったいない」という言葉自体、今の若い人、子供たちは直截的にわかってくれない。石油があと40年、天然ガスが60年、ウラニウムが70年、石炭は150年ぐらい。便利で使いやすい、エネルギー資源は、使えば確実にその分なくなる。おじいさんの遺産みたいな、エネルギー資源、化石燃料。それは孫の時代になくなるのだと。だから、ゴミを1つのエネルギー資源としてとらえて、そこから電気を起こしているのだと。

今循環型社会と言われている。日本は資源小国であるから、エネルギー資源だけでなく、非鉄金属、亜鉛、銅、鉛はあと40年前後でなくなる。これも孫の代にはない。

そういう状況の中で、日本のような資源小国がどうやって生き延びていくか、結局、ゴミになって出てきた中から、資源がまだ残っている、そこからうまくリサイクルして循環して使っていくという社会構造なり、経済構造をつくっていく。だから、分別が必要だ、リサイクルが必要だ。そこまで言わないとなかなかわからない。そういうことを含めたものを、ここの啓発機能、パネル、DVDでつくってあげるとよいのではないか。

会 長 : そういった具体的な議論を3期の方でお願いしたい。

(2) 中間報告のまとめについて

【事務局説明】

会 長 : 中間まとめについて意見等あるか。

D 委員: 施設の外観について、特に壁面緑化だが、不燃化施設は意外と側面がたくさんある、西側は緑化されるので、あまり壁面が目立たないと思う

が、東側は不燃化施設の壁面が丸見えである。そういうことから、主な意見の中に、「不燃化ごみ処理施設を含めた緑化計画を考えてほしい」という意見をつけ加えることを提案する。

環境学習機能については、ごみ減量対策の具体例の表示をぜひしたい。ごみ減量をより具体的に挙げると、分別の強化と、もう一つ、可燃ごみの半分を占める生ごみ、これの資源化がある。いろいろな方策があるし、いろいろな市民の工夫もあるので、そういうものが具体的に示されるようなコーナーが欲しい。ごみ減量のプロジェクトに従ったコーナーをぜひつくっていただきたいということをこの主な意見の中に加えてほしい。

会 長 : D 委員の2つの提言、施設の外観の中に「不燃ごみ施設を含めた緑化計画」を、環境学習機能の中に「ごみ減量の具体策を示す」について採用してもよいか。

(「異議なし」の声あり)

会 長 : ほかに意見はあるか。

C 委員: よくリサイクルと言われるが、リデュースというのもあるし、リユースもある。一番大切なのはある意味ではリユースだと思う。消費者社会というのは、リユースするのが難しくなっている。何でもプラスチックで容器をつくっている。昔は瓶だったら何回でも使えたが、ペットボトルになるとなかなか何回も使うというわけにはいかないから、結局は焼却するか、加工してとなる。

それから、食品のリサイクルの問題、堆肥化をする、生ごみを減らそうという。一方で、どうしても燃えないものがある。例えば金属とか、石でできているようなものとか、一体それはどこへ持っていつているのか。いろいろな疑問もあるので、そういうことも議論の中で問題提起があったと今回の総括には盛り込んで、次の第3期へバトンタッチしていくということが必要ではないか。

会 長 : 今の、C 委員の意見について、なにか意見はあるか。

G 委員: 実は今3Rじゃなくて、2Rの署名活動をやっている。それはリデュース、リユースをメインにするという形。ごみを出さないというのが第

1条件だと思う。先ほどもったいないという言葉もあったが、やはりそれはもったいないから、ごみに出すのではなく、できるだけ活用しようではないか、そういうことを子供たちに伝え、それから、使い回し、リユースを重点に。できるだけプラスチックやペットボトルは使わない姿勢でいる。瓶をリユースする、それを徹底的にやる活動しているで、やはりリユースということ子供たちにもしっかりと伝えたい。あまりにもリサイクルに行政が税金を使い過ぎる。リユースを最優先にするということ全面に出した方法を検討してほしい。

E 委員： ごみ市民会議でごみの見直しを検討している。そこと連帯しながらやっていけばいいと思う。

B 委員： 展示室、展示の方法の工夫について1つ提言したい。廊下に展示することはやっぱり難しい。歩くところに展示物のいいのがあっても立ちどまって読む環境ではない。展示物はまとめて、大研修ホールや小会議室や中会議室などに効果的になるように工夫して行う必要がある。

会 長： 環境学習について、C 委員、G 委員からも意見が出たが、基本的なねらい、そこを伝えられような、コンセプトを出していく必要がある。第3期でその辺を議論しながら、小林委員から意見が出た、展示の内容、工夫などを検討して、1つのコンセンサスを取りながら、こういう方向でというのができればいいと思う。

E 委員から意見の出た、三鷹や調布それぞれから出される方向づけをこちらのほうへ反映していけば間違いのない環境学習機能になっていくと思う。ただ、施設、物理的なものが限られていて、すべての環境学習、ごみ学習をやれるものではないことだけはわかっているので、どこかに重点を置いて、このふじみの施設らしいものを優先順位をつけてやっていかななくてはならない。

F 委員： 緑化する場合に生野菜とか、野菜くずとか、そういう残菜からつくった土や堆肥にしたものを使用して、そこに花を、種や球根から、植えていくというのもよいのでは。

会 長： 3階の西側の屋上スペースで、学習機能的なものも加えることができるか、具体的な可能性について、また検討していきたい。

A 委員： 色について市民検討会の意見を踏まえ、施工業者へ要望として提案するとあるが、主な意見にも、それぞれの意見であって、中には相反するものもある。

事務局： まとめの部分を提案するということである。1つは壁面緑化を積極的に取り入れてほしい。色彩については周辺環境と調和させてほしい。ということである。

A 委員： それならば、施工業者へ提案ではないと思う。

事務局： これは施工業者ではなく、ふじみ衛生組合管理者へ書き直したい。

5 その他

【今後の予定について事務局説明】

L 委員： 一点報告したい。このふじみの施設に6万6,000ボルトの電気を東京電力が供給するために、私どもの深大寺東自治会にある、すわくぼ東児童遊園という小さな公園に35メートルの高圧鉄塔を建てるという東京電力からの説明があった。市民検討会で、この施設ができるに当たって、そういった電力の供給問題も当然話されてなければいけないと思う。公園の周りの人は怒っている。自治会としてもその公園を大事にしている。老人会でゲームをしたり、木に名前をつけたり、防災用品の倉庫も置いてある。東京電力に抗議し、別の案をつくることを今要求している。

私は、この市民検討会でそういったことがなぜ出てこなかったのかは疑問を持っている。要望としては、三鷹、調布両市、それからふじみ衛生組合で、鉄塔をすわくぼ東児童遊園に建てるのではない電力の供給方法をお願いしたい。

事務局： 誤解があってはいけないので説明する。ふじみ衛生組合にその話があったのも同じタイミングである。私どもがすわくぼ東児童遊園に鉄塔を建ててくれと言ったことは一度もない。あくまでも東京電力が自分たちの判断としてどこに鉄塔を建てれば一番いいか検討し選んだということである。ふじみ衛生組合が東京電力に依頼しているのは、平成24年10月の試運転の時期までに6万6,000ボルトの電力を送ってほし

い。それだけである。

L 委員： 自治会と一緒に相談しながら東京電力に考えてもらう。

F 委員： 高圧電線というのはいろいろなことで問題が多い。

G 委員： 電磁波の問題。

L 委員： そういうことをわかっていただきたい。三鷹、調布、両市と一緒に、私たち自治会と連合会、取り組んでいきたい。

D 委員： 可燃ごみ処理施設から炭酸ガス、CO₂削減が非常に効果があるというふうに聞いて、安心しているのだが、可燃ごみ中のプラスチックの量はどうやって把握するのか。抜き取り検査しかないと思うのだが、どうやるのか。教えてほしい。

事務局： 可燃ごみ中のプラスチックは、実際に焼却場に来たパッカー車からごみをおろしたところを調査する。現状では、三鷹市の環境センターの年報等を見ると、大体十数%ぐらいのプラスチックが入っている。

D 委員： 調布と三鷹でデータが分けられるか。それから、事業系と家庭系とデータが分けれるか。

事務局： 三鷹市のごみの収集車か調布市のごみの収集車か分かるので、その時点で調査すれば分けられる。ただ、一度ピットへ入れてしまえばまざってしまうので難しい。

D 委員： これから協議事項か。

事務局： 今後どういう形でごみの分析をしていくかというのは協議事項になる。

会 長： これで2期の終了とさせていただきたい。

午後9時00分散会